



Japan Music Education Society News Letter

第36号

No. 36

日本音楽教育学会ニュースレター

目次

研究倫理に関するお願い	2
1 報告・お知らせ	
1-1 平成 21 年度第 1 回常任理事・理事会報告	3
1-2 編集委員会からのお知らせ	7
1-3 韓日合同ゼミナール（第 1 次案内）	10
1-4 日本音楽教育学会第 40 回大会のご案内（2）	11
1-5 40 周年記念事業	
「40 年の歩み」の編集について	13
記念論文集の進捗状況について	14
2 新刊紹介	
2-1 音楽家のためのアレクサンダー・テクニーク入門（今田匡彦）	14
3 事務局より	
3-1 お知らせ	16

編集後記

日本音楽教育学会会員各位

研究倫理に関するお願い

2009年5月17日

日本音楽教育学会理事会

昨今、さまざまな研究分野において研究倫理についての関心が高まっています。音楽教育研究においても、研究者一人一人が良識をもって研究活動をすすめていくことが求められています。日本音楽教育学会会員の皆様におかれましても、次の諸点にご留意の上、研究をすすめてくださいますようお願いいたします。

- 1 関連する法令や機関・団体の規則を遵守する。
- 2 関係する個人・団体の権利を尊重し、侵害しない。
- 3 その他、社会的通念に照らして良識ある行動をする。

なお、本学会の刊行物に掲載された論文やすでに発表済みの研究発表であっても、その内容について学会として責任を負うものではありません。内容にかかわる問題が指摘された場合には、執筆者、発表者個人の責任で対処していただくこととなりますので、十分にご注意くださるようお願いいたします。

1 報告・お知らせ

1-1 平成 21 年度第 1 回常任理事・理事会報告

日 時：平成 21 年 5 月 17 日（日）14:00-16:45

場 所：学術総合センター会議室

出席者：岩崎，小川，北山，齊藤，佐野，杉江，筒石，田中，津田，坪能，
尾藤，本多，三村，八木，安田，吉田，吉富（五十音順）

欠席者：嶋田，新山王，藤沢，降矢（五十音順）

記 録：三村

【報告事項】（齊藤事務局長）

<平成 21 年 2 月 22 日以降>

2 月 22 日 平成 20 年度第 4 回常任理事会
2 月 22 日 平成 20 年度第 4 回編集委員会
3 月 30 日 ニュースレター第 35 号発行
3 月 31 日 音楽教育実践ジャーナル vol.6 no.2 発行
4 月 6 日 学会活動検討委員会
4 月 24 日 平成 20 年度会計監査会
4 月 30 日 音楽教育関係文献リスト申請締切
5 月 10 日 平成 21 年度第 1 回編集委員会
5 月 17 日 平成 21 年度第 1 回常任理事・理事会

【審議事項】

1. 平成 20 年度決算報告及び監査報告

- ・田中常任理事から平成 20 年度決算報告がなされた。
- ・奥忍，今川恭子会計監査による会計監査報告（文書）を齊藤事務局長が代読した。
- ・平成 20 年度決算が承認された。

2. 平成 21 年度事業計画及び補正予算について

1) 平成 21 年度事業計画

- ・齊藤事務局長から平成 21 年度事業の確認が行われた。

平成 21 年

4 月 24 日 平成 20 年度会計監査会
5 月 10 日 平成 21 年度第 1 回編集委員会
5 月 17 日 平成 21 年度第 1 回常任理事会・理事会
6 月初旬 研究発表・共同企画申し込み締切
6 月下旬 音楽教育学 第 39 巻第 1 号発行
ニュースレター 第 36 号発行
第 19 期日本音楽教育学会会長・理事選挙
7 月上旬 平成 21 年度第 2 回常任理事会
平成 21 年度第 2 回編集委員会
研究発表受理通知
8 月下旬 音楽教育実践ジャーナル vol.7 no.1 発行
ニュースレター第 37 号発行
第 40 回大会プログラム発送

10月2日	第3回編集委員会 第3回常任理事会・第2回理事会
10月3-4日	第40回大会・総会・40周年記念式典 <会場：広島大学>
12月下旬	音楽教育学 第39巻第2号 発行 ニュースレター 第38号 発行
平成22年 2月中旬	平成21年度第4回編集委員会 平成21年度第4回常任理事会
3月末日	音楽教育実践ジャーナル vol.7 no.2 発行 ニュースレター 第39号 発行 平成21年度会計決算

2) 平成21年度補正予算について

・田中常任理事から平成21年度補正予算について提案があり、承認された。

3. 平成22年度事業計画及び予算について

・齊藤事務局長から平成22年度事業計画の提案があり、承認された。

・田中常任理事から平成22年度予算の提案があった。

・岩崎理事から予備費が年々減額傾向にあることへの対応策が必要であろうという指摘があった。平成22年度予算については、学会活動検討委員会答申によって事業が変わる可能性があるため、7月に開催される常任理事会で再検討することとなった。

4. 第40回大会について

・三村常任理事(第40回大会事務局長)から第40回大会の日程、実行委員会企画等についての提案があり、承認された。(詳細は別記)

・吉田会長から40周年記念行事についての提案があり、承認された。

① 学会長挨拶

② 40周年の歩み(山本文茂氏に講演依頼)

③ 学会賞授賞式

④ 記念講演(韓国音楽教育学会長ミン・キョンファン氏)

・小川常任理事から常任理事企画について提案され、承認された。

① 唱法再考—学校教育現場の現状と今後のあり方を考える(仮題)

② 現代思想からみた我が国の音楽教育—われわれは今どこにいるのか(仮題)

5. 第41回大会について

・吉田会長から第41回大会は埼玉大学で行うとの確認がされた。

6. 学会活動検討委員会中間報告について

・八木常任理事(学会活動検討委員会)から資料に基づき報告が行われた。学会誌の発行回数、編集委員会業務、事務局業務、地区例会、出版物、ワークショップ等についての具体的な検討案が出され、7月の常任理事会で扱うこととした。

7. 倫理規定について

・吉田会長から倫理規定に関わる提案があり、承認された。(2ページ参照)

8. 次期各委員会の委員の選出について

・吉田会長から次期の各委員会委員選出に関して、今期理事会は次期理事会の決定を拘束しないことが提案され、承認された。

9. 名誉会員について

・吉田会長から今年度中に名誉会員を推薦することが提案され、承認された。推薦基準については継続審議とした。

10. 新入会員及び退会者について

・齊藤事務局長から以下のように報告があり、承認された。

新入会員 25 名，新入学生会員 4 名，申し出退会者 24 名
平成 21 年 5 月 11 日現在：正会員数 1547 名

新入会員（平成 21 年 2 月 22 日以降）

会員番号	氏名	所属先
3606	磯部 二郎	東海大学
3607	渡部 計二	同志社女子大学
3608	荒木美登利	新潟市立山田小学校
3609	徳永 崇	広島大学
3610	板本 緑	財団法人東京二期会
3611	長野 麻子	立教女学院短期大学
3612	アガバビアン 千尋	Music Together LLC
3613	寺内 大輔	九州大学（院生）
3614	池田 康子	川崎市立下河原小学校
3615	河 兌熙	奈良女子大学（院生）
3616	田崎 直美	お茶の水女子大学（研究員）
3617	中村 賢作	神奈川県立三ツ境養護学校
3618	高橋 恭子	
3619	山中和佳子	東京芸術大学（院生）
3620	渡邊 結	玉川大学（院生）
3621	黒崎千賀子	新潟大学教育学部附属長岡小学校
3622	宮本 憲二	尚美学園大学
3623	仙田 真帆	鳥取大学（院生）
3624	網屋 太郎	常葉学園大学
3625	藤井 皓子	広島大学（院生）
3626	田村 雅一	防府市立中関小学校
3627	白井 希	東京音楽大学（院生）
3628	高嶋 道夫	横浜国立大学（院生）
3629	奥山 祐司	桜花学園高等学校
3630	多田 純一	大阪健康福祉短期大学

学生会員（平成 21 年 2 月 22 日以降）

会員番号	氏名	所属先
B-56	平岩 幸	広島大学教育学部
B-57	毛利 彩夏	広島大学教育学部
B-58	長谷川 諒	広島大学教育学部
B-59	南 亜依花	広島大学教育学部

【報告事項】

1. 各委員会報告

1) 編集委員会

・八木常任理事（編集委員会）から資料に基づき，学会誌について，投稿規程の改正について等の報告があった。（詳細は別記）

2) 国際交流委員会

・田中常任理事（国際交流委員会）から資料に基づき，国際交流委員会 2009 年度活動計画，韓国音楽教育学会との交流について等の報告があった。（韓日合同ゼミナールのお知らせについては 10 ページ参照）

3) 40 周年記念誌作成委員会報告

・岩崎理事（40 周年記念誌作成委員長）から進捗状況について報告があった。

4) 音楽文献目録委員会

・山下薫子委員からの資料に基づき、齊藤事務局長が報告した。

5) 40周年記念論文集編集委員会

・安田理事（40周年記念論文集編集委員長）から進捗状況について報告があった。

6) 学会賞審査委員会

・吉田会長（学会賞審査委員長）から進捗状況について報告があった。

7) 選挙管理委員会

・細田淳子選挙管理委員長からの資料に基づき、齊藤事務局長が報告した。

・理事被選挙者について、地区を移動した場合でも3期目は認めないことが確認された。

2. 地区例会報告（平成20年度）

地区	開催日	開催場所
北海道	3月8日	北海道教育大学岩見沢校
東北	2月21日	弘前大学
関東	2月7日	東京学芸大学
北陸	2月28日	新潟大学
東海	3月22日	静岡県教育会館
近畿	3月7日	滋賀大学
中国・四国	3月29日	広島大学
九州	3月15日	大分大学

3. ニュースレターについて

・嶋田常任理事による資料に基づき内容が確認された。

4. 学会員の個人情報等について

・吉田会長から理事及び役員に向けて会員の個人情報等の取り扱いに関する注意が喚起され、ニュースレターにもその旨を記載することになった。（下記）

日本音楽教育学会理事，各委員会委員各位

学会員の個人情報等について

2009年5月17日
日本音楽教育学会会長
吉田 孝

日本音楽教育学会運営においては、いつもお世話になっております。

日本音楽教育学会理事会は、会員の皆様に5月17日付けで別記のような「研究倫理に関するお願い」をいたしました。この点については、会長、理事、各委員会委員等、学会の役職にある会員が率先して実践する必要があると考えています。とくに私たちは、学会員の様々な個人情報や業務にかかわる情報を知り得る立場にあります。すでに十分に注意していただいているとは存じますが、今後とも個人情報や業務上知り得た情報の流出や漏洩がないよう、またそのようなことがあったと誤解されることのないよう、十分にご注意くださいますよう重ねてお願いいたします。

1-2 編集委員会からのお知らせ

編集委員会委員長 権藤敦子

1. 『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』の投稿規程が変わります！

長いあいだ懸案となってきた投稿規程見直しですが、1年間かけて編集委員会で検討してきた改正案が5月17日の理事会において承認されました。新しい規程は、『音楽教育学』第39巻第1号の巻末に掲載しておりますので、是非一度お目通しください。なお、学会ホームページには、新しく「投稿の手引き」と「学会誌投稿の書式」を掲載します。

「投稿の手引き」には、投稿にあたっての基本的な注意事項と、書式の一般原則を詳しく記述しています。また、「学会誌投稿の書式」には、投稿時に同封する【別紙1】投稿申込書と【別紙2】投稿者用チェックリスト、および、『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』の原稿を作成する際の種類の書式があります。ホームページからご利用いただけない場合には、事務局〔編集担当〕までご連絡くださればお送りします。

投稿される原稿の種類に応じた書式をダウンロードしていただき、そのテンプレートに上書きするか、別に作成された原稿を貼り付けていただくことで、規程に示されたページ設定で執筆することができます。また、テンプレートには執筆方法に関する記述を執筆例として掲載しておりますので、「投稿規程」「投稿の手引き」とあわせてご参照いただき、ご投稿の際の参考にしていただきますようよろしくお願いいたします。以下、改正の趣旨および主要な改正点についてお知らせします。

【改正の趣旨】

- 1) 原稿執筆方法の変化を考慮して、投稿者の立場にたち、わかりやすく投稿しやすいものとする。
- 2) 本学会における標準的な書式を明示する。
- 3) 多領域の研究分野が集まっている学会であることを考慮し、標準的な書式で執筆が難しい場合には、学術的に裏付けられた一貫性のある書式、スタイルであれば許容するものとする。
- 4) 分量を見直し、『音楽教育学』の「研究論文」「研究報告」については従来よりもゆとりのある上限にすると同時に、各記事が可能な範囲で偶数ページとなるようレイアウトに配慮する。
- 5) 『音楽教育学』と『音楽教育実践ジャーナル』とで共通にできる部分を見直す。
- 6) 学会誌に関わる倫理的な問題についての注意喚起をはかる。
- 7) 公正・迅速な審査が行えるようにする。
- 8) 編集作業の効率化をはかり、確実に無理のない業務ができるよう整備する。

【改正のポイント】

- 1) でき上がりのページ設定で投稿を受け付ける。具体的には、『音楽教育学』は23字35行2段組、『音楽教育実践ジャーナル』は21字39行2段組とし、「学会誌投稿の書式」および「投稿の手引き」をホームページから利用できる

ようにする。また、写真、図表等はデジタルデータとして挿入できるものについては本文中の適切な箇所に挿入する。

2) 『音楽教育学』の「研究論文」「研究報告」は、題目、要旨およびキーワードを別紙とし、本文の分量を11ページ以内とする。『音楽教育実践ジャーナル』の原稿はタイトル部分を含めて12ページ以内とする。なお、原稿にはページ数をつける。

3) 新しく「書評論文」を『音楽教育学』の投稿の種類に加える。

4) 投稿論文はそれぞれにおいて独立・完結した題目・論文構成であるものとする。

5) 投稿者名が判明する記述(拙著、拙論等)は本文中に含めず、投稿者の情報は「投稿申込書」に記載する。

6) 題目、要旨およびキーワードは和文と英文を掲載する。和文要旨は400字以内、英文要旨は200語以内とする。

7) 『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』とも、投稿時には「投稿申込書」と「投稿者用チェックリスト」を各1部、および、原稿を4部送付するものとする。

8) 投稿は随時受け付けるが、学会誌発行にあわせて締切を設定する。具体的には、『音楽教育学』は6月15日と12月15日、『音楽教育実践ジャーナル』は3月15日と9月15日を締切とする。査読手続きを経て委員会で審議し、締切後約2ヶ月を目途に結果を投稿者に通知する。

2. 平成21年度第1回編集委員会(5月10日)のご報告

『音楽教育実践ジャーナル』vol.7 no.2(通巻14号)の特集について決定しました。お知らせ末尾に原稿募集のご案内を掲載しております。趣旨をご理解いただいてたくさんの御原稿をお寄せいただきますよう、お待ちしております。

なお、投稿規程の改正にともない、従来よりも早く9月15日を締切としますので、ご投稿の際にはご注意ください。

投稿原稿につきましては、『音楽教育学』研究論文2本の審議を行い、1本の掲載が決定されました。『音楽教育実践ジャーナル』特集投稿には8本の応募を頂き6本を掲載、1本は自由投稿論文として採択されました。また、『音楽教育学』研究論文3本、および、『音楽教育実践ジャーナル』自由投稿4本について新たに査読手続きに入りました。

次回編集委員会は8月8日(土)に開催予定です。

3. 『音楽教育実践ジャーナル』vol.6 no.2(通巻12号)の訂正について

3月発行の『音楽教育実践ジャーナル』において、下記の箇所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

・訂正箇所(1): p. 29 左段 17行目

(誤) 藤田洋『日本舞踊入門』文研出版、平成51年

(正) 藤田洋『日本舞踊入門』文研出版、昭和51年

・訂正箇所(2): p. 63 4行目

(誤) 東育英小学校

(正) 台東育英小学校

特集テーマ：「学校器楽教育の過去・現在・未来」

戦後の音楽科教育は、第1次学習指導要領(試案)が示したように「従来の音楽教育のようにただ歌唱だけをやっていたのでは不十分」との認識から出発しました。困難な状況の中、代用楽器の合奏から始まった器楽教育は、1950年代にはリード合奏として発展しました。それが60年代後半からリコーダー中心の合奏に取って代わります。これだけみても、学校器楽教育はブームと呼べるほどの変化を伴いながら展開してきたことがわかります。それは、楽器産業の隆盛と、教師たちの熱心な教材開発、指導法の研究に基づく実践に支えられた変化でした。

現在、児童生徒は一人ひとりリコーダーや鍵盤ハーモニカなどをもち、音楽室には多様な楽器が豊富に並んでいます。それらには、「教育上の観点」から手が加えられた「教育用楽器」も含まれます。児童生徒のための改良であっても、「教育用」であるがゆえの問題点があるかもしれません。それは楽器の問題だけでなく、どういった様式の教材をどのように編曲するののかという問題とも直結しています。また、従来に比べ限られた時間の中で、和楽器やコンピュータと連動した電子楽器なども含めた多様な楽器から、何を選び、どう時間配分するかは、悩ましい問題です。そして、楽器に対する関心を持続していくには、知識・技能の問題も避けて通ることはできないでしょう。器楽教育は、今後どのような方向に向かうのでしょうか。どう進むべきなのでしょうか。

本特集では、器楽教育の実践を原点から見つめなおし、その過去、現在、未来を問い、論じようとするものです。器楽教育は課外活動でも学校外でも重要な位置を占めていますが、本特集では学校の音楽授業における器楽教育に絞って、議論を深めたいと考えます。

会員の皆様からの活発なご意見、投稿をお待ちしております。論文のみならず、さまざまな実践例なども広く募りたいと思います。

【投稿時のお願い】

- ・締切が早くなっていますのでご注意ください。通巻14号へのご投稿は、特集投稿・自由投稿とも、9月15日(火) (消印有効)までをお願いします。
- ・分量および書式は、A4判用紙に横書き、21字×39行×2段組 12ページ以内とし、タイトル、図表、写真等のスペースも含めます。ホームページから書式(テンプレート)をダウンロードできますのでご利用ください。
- ・投稿原稿は、「音楽教育実践ジャーナル投稿規程」「投稿の手引き」をご参照いただき、規程に則ってご執筆いただきますようお願いいたします。
- ・【別紙1】投稿申込書と【別紙2】投稿者用チェックリスト各1部(ホームページおよび学会誌巻末掲載)を同封し、原稿4部を下記あてに郵送でお送りください。

(送付先) 〒184-8799 小金井郵便局私書箱26号

日本音楽教育学会 編集委員会

- ・原稿が届いたら事務局より受領通知をお送りしています。万一10日以上経っても通知がない場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。
- ・採択された原稿については、編集委員会から10月末日までに投稿者に連絡します。審議の結果によっては、修正をお願いする場合があります。
- ・ご不明の点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

(問い合わせ先)

日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕 jmesedit@hiroshima-u.ac.jp

1-3 韓日合同ゼミナール（第1次案内）

日時 2010年1月9日（土）、10日（日）
会場 建国大学校（韓国・ソウル市広津区）

おもなテーマ

- ・韓日の教師教育の改革
- ・韓日の新しい教育課程
- ・韓日の学校における授業以外の音楽活動
- ・韓日の音楽教育における教授・学習方法
- ・韓日交流と音楽教育

韓日合同ゼミナールへのお誘い

韓国では新教育課程を開発し、近くこれを学校に適用する予定です。学校で新しい教授方法、学習方法を適用するにあたり、特に教師の課題意識が高まっています。

また、韓国では、学校での正規教育以外の音楽活動や音楽教育への関心も広がっています。例えば、放課後の音楽活動、地域社会と関連した音楽活動、そして音楽の英才教育などがあげられます。

日本でも、最近、学習指導要領が改訂されたと聞いています。韓日の両学会で、互いに、新しい情報を交換し、研究成果の発表をしあうことは、とてもタイムリーで、有意義だと思います。

日本音楽教育学会の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

韓日合同ゼミナール実行委員長
ソク・ムンジュ（석문주, 京仁教育大学校教授）

2008年1月に、日本女子大学で開催された日韓合同ゼミナールは、皆様のご記憶に新しいことと思います。この度は、韓国・ソウルに会場を移し、韓日合同ゼミナールとして開催される運びとなりました。

開催日は、ちょうど日本では3連休の土日にあたります。また、会場の建国大学校は、ソウルオリンピック公園やロッテワールドに程近い、ソウル市内の交通至便な場所にあります。日程、場所のいずれも、日本から参加しやすくなっています。

このゼミナールは、姉妹学会である日韓両音楽教育学会が協力して行なうもので、距離的にも、そして内容的にも、最も身近な国際学会といえます。

韓日合同ゼミナール開催に際し、研究発表等を募集します。詳しい応募要領は、7月初旬に日本音楽教育学会のホームページに掲載しますのでご覧ください。多数のご応募をお待ちしております。

☆応募〆切 2009年10月15日

☆申込方法 ホームページの応募要領をご覧の上、学会事務局に、電子メールまたはFAXでお申込み下さい。

事務局 E-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp
FAX : 042-381-3562

お問い合わせ 国際交流委員長 藤井浩基
kofujii@edu.shimane-u.ac.jp

1-4 日本音楽教育学会第40回大会のご案内(2)

大会実行委員長 吉富功修
同 事務局長 三村真弓

1. 第40回大会日程

大会のおおよその日程が決まりました。研究発表・共同企画の申込数によっては若干の変更があります。会場は、広島大学大学院社会科学研究所講義棟です(教育学研究科ではありませんのでご注意ください)。

10月3日(土)

	8:45 9:30	12:00	13:00	14:30 14:45	16:45 17:00	17:45 18:00	19:30
受付	研究発表Ⅰ A B C D E F G H	昼食	プロジェクト 研究Ⅰ 共同企画Ⅰ	移動・休憩	40周年記念 行事	移動・休憩 総会	移動・休憩 懇親会

10月4日(日)

	8:45 9:30	12:00	13:00	14:30 14:45	16:15
受付	研究発表Ⅱ I J K L M N O P	昼食 院生 フォーラム	大会実行 委員会企画	移動・休憩	プロジェクト 研究Ⅱ 共同企画Ⅱ ワークショップ

2. 大会実行委員会企画

- ①平成10年度改訂小学校学習指導要領(音楽)に記載されている音符・記号等の知識の習得状況、及び歌唱共通教材の学習度に関する調査を、中学1年生、高校生、大学生を対象として行いました。この調査結果を報告いたします。
- ②ハンガリーの Pécs 科学大学元副学長 Pajor Márta 女史を招聘し、現在のハンガリーの音楽教育に関して講演していただきます。

3. ワークショップ

Pajor Márta 女史による、コダーイ・メソードのワークショップを行います。幼稚園・小学校及び教員養成大学における実践を紹介していただきます。

4. 交通・宿泊情報

広島大学へのアクセス方法

(1) JR を利用する場合

西方面から：山陽新幹線で広島駅へ→山陽本線上りに乗り換えて西条駅で下車（約 35 分）→バスで広大中央口下車（約 20 分）

東方面から：①山陽新幹線で広島駅へ→山陽本線上りに乗り換えて西条駅で下車→バスで広大中央口下車

②山陽新幹線で福山駅へ→こだま下りに乗り換えて三原駅へ→山陽本線下りに乗り換えて西条駅で下車→バスで広大中央口下車

③山陽新幹線で福山駅へ→こだま下りに乗り換えて東広島駅で下車→タクシーで広島大学へ（約 10 分）

*東広島駅からのバスは、月～金の午前中 4 本しかありません。

(2) 飛行機を利用する場合

広島空港からバスでJR白市駅へ→山陽本線下りで西条駅下車→バスで広大中央口下車

(3) 車を利用する場合

東方面から来られる方は山陽自動車道西条インターで、西方面から来られる方は山陽自動車道志和インターで降りてください。駐車場は大学内にたっぷりあります。

宿泊施設

東広島市内のホテルは、数が限られています。お早めにご予約ください。広島市内のホテルを利用される方は、広島大学へのアクセス方法が2つありますので、それぞれに応じて宿泊場所をお決めください。JRを利用される方は、広島駅近辺のホテルが便利です。高速バスを利用される方は、広島市内中心部のホテルが便利です。高速バスは、広島バスセンター（紙屋町）から、グリーンフェニックス号が1日15往復（所要時間約55分）運行されています（土日は朝の便数が少ないので、ご注意ください）。

*広島大学は、交通の便がやや不便ですが、広々として美しいキャンパスを有しています。また広島市内及び近郊には、平和公園や宮島など見どころがたくさんあります。近々立ち上げる予定のホームページには、東広島市内、広島市内の情報等を満載する予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1-5 40周年記念事業

「40年の歩み」の編集について

40周年記念誌作成委員会
委員長 岩崎 洋一

2年前から学会の31年目から10年間の歩みをまとめる委員会として、40周年記念誌作成委員会が出発しました。昨年の秋より実務的な取り組みを始め、今年度に入り、データとして大まかな打ち出しを終えた段階です。対象としたデータは次の通り。

- ・活動の写真：大会・ゼミナールの様子，出版物，大会要項
- ・会員数，予算，論文数
- ・学会誌掲載論文
- ・音楽教育ジャーナル
- ・口述研究発表
- ・課題研究，プロジェクト研究
- ・シンポジウム，パネルディスカッション，ワークショップ，基調講演，フォーラム
- ・音楽教育ゼミナール
- ・例会
- ・ニュースレター
- ・役員一覧

以上が編集内容の骨子ですが、苦労したのが10年間の歩みを目の当たりに出来る写真がなかなか集まらなかったことです。毎年の大会やゼミナール等の記録を継続して収集しておくことの必要性を感じた次第です。また、これまでの資料の確認をしていますと、明らかに誤記であろうと思われる内容があったりと、編集の最後までにまだ精査しなければならない状況があります。

ところで、当初、出版を今年10月に広島大学で行われる大会でお配りできればと進めてきましたが、今年度の総会で20年度の決算を含めた内容が確定しますので、そのデータを入れての作業になります。その後に印刷所回し、校正を考えると、平成21年度内に出版出来る方向で進めているところです。

編集委員は次のメンバーですので、何かございましたらお声掛けをお願いします。

40周年記念誌作成委員

委員長：岩崎洋一

委員：尾藤弥生，降矢美彌子，筒石賢昭，津田正之

記念論文集の進捗状況について

40周年記念論文集編集委員会
委員長 安田 寛

原稿はほぼすべて音楽之友社に提出済みで、現在鋭意編集作業に入っています。10月の学会には並べて会員の皆様にお届けすることが出来る予定です。

今回の記念論文集は学会のいわゆる自費出版ではなく、出版社の企画出版扱いとしていただきました。そこで会員の皆様へのお願いなのですが、ご自身はもちろん、関係者にぜひお勧めいただき、売り上げにぜひともご協力下さい。それが学会の今後の発展への大きな後押しとなります。

これまでにない目新しさは、6部門に、各部門担当編集者による過去10年間の研究動向の概観を載せたことです。それぞれの部門を代表するお一人であろう研究者による「動向」はそれぞれに力作で、それぞれに個性的です。各部門に掲載された論文と合わせて読むことで、若い研究者にはこれからの羅針盤となり、中堅の研究者には反論を含めて研究意欲を高めていただくものとなり、大成した研究者には、当該分野の到達度をながめ後進の指導の指針となる良い機会を提供するものとなることでしょう。執筆者は己の浅薄を恥じる針のむしろに座ることになるでしょう。

また、音楽教育とその研究の未来に明るい展望を祈念して、片寄晴弘（関西学院大学理工学研究科教授）、小西行郎（同志社大学大学院赤ちゃん学研究センター教授）、宮川ひろ（児童文学作家）、宮田亮平（東京藝術大学学長）、吉俣良（作曲家）、若林千春（作曲家）の各氏に巻頭エッセーをお寄せ頂くことが出来ました。音楽教育とその研究への熱いエールであるこれらのエッセーもぜひお読みいただきたいと思えます。

内容は、巻頭言、巻頭エッセー、各6部門毎の研究動向と論文となります。10月の出版をぜひお楽しみ下さい。

2 新刊紹介

2-1 音楽家のための アレクサンダー・テクニーク入門

ペドロ・デ・アルカンタラ著
小野ひとみ監訳／今田匡彦訳
春秋社

2009年4月刊行
全426ページ、2800円＋税
ISBN: 978-4-393-93495-1



本書は、アレクサンダー・テクニーク教師でチェリストでもあるペドロ・デアルカントラ (Pedro de Alcantra) による *Indirect Procedures: A Musician Guide to Alexander Technique* (Oxford University Press) を、今田匡彦が全訳し、アレクサンダー・テクニーク独自の発想法を通してアレクサンダー・テクニーク指導者の小野ひとみが監修したものである。

シェークスピア演劇の朗誦家であったオーストラリア人、F. M. Alexander (1869-1955) によって提唱、開発されたアレクサンダー・テクニークは、頭、脊椎、胴体、四肢、脳などの身体の使い方を、primary control (原初的調整作用)、inhibition (抑制、或いは準備)、direction (方向性) などの概念により調整するための身体、及び精神の活動である。アレクサンダー・テクニーク指導者協会 (STAT) によって資格化されているこのテクニークは、ジュリアード音楽院、英国王立演劇学校 (RADA) などの芸術高等専門機関にて広く応用されているのみならず、医療機関との連携による代替医療としても利用されている。

このテクニークの基本は、立つ、座る、歩く、など、あくまでも我々の日常生活でのごく普通の動作である。これらの中から惰性的な習慣、身体の誤用を見出し、本来の心身のあり方を見出そうとするこのテクニークは、学校教育現場のみならず、人間生活の様々な場面でのサプリメントとして役立つ。これまで学校教育での身体論は、体育科に委ねられてきた。そのため、体育科では感性教育の方法論が確立していない。また、音楽科では身体性に関する方法論の確立が遅れ、そのため擬似的な感性論に終始してきた。本書では、これらの二つの分野を横断する様々なプロシージャーが、その背景となる哲学を踏まえ、詳細にわたり説明されている。本書の構成は以下の通り：

第Ⅰ部 アレクサンダー・テクニークの基本原則

1. 自己 (セルフ) の使い方 / 2. プライマリー・コントロール / 3. 感覚認識と概念形成 / 4. 抑制 (インヒビション) / 5. 方向性 (ディレクション) / 6. 行為 (アクション)

第Ⅱ部 アレクサンダー・テクニークのさまざまな取り組み (プロシージャー)

7. アレクサンダー・テクニークのレッスン / 8. 呼吸 / 9. モンキーとランジ / 10. 腕と手 / 11. 囁く“アー” / 12. テーブル・ワーク / 13. さまざまなプロシージャーの組み合わせ / 14. 自分で自分に働きかける

第Ⅲ部 アレクサンダー・テクニークを音楽演奏に応用する

15. 演奏のテクニクとは / 16. 日々の練習 / 17. 美的な判断 / 18. 規範と逸脱 / 19. 継続の中の切れ間 / 20. 変数と定数 / 21. トランポリン式の準備 / 22. 模倣について / 23. あがり症 / 終章

詳細は以下のサイトにて：

<http://www.shunjusha.co.jp/detail/isbn/978-4-393-93495-1/>

(今田匡彦, 弘前大学)

3 事務局より

3-1 お知らせ

1) 年会費未納の方には、「払込取扱票」を同封しますので、早めの振り込みをお願いします。2年間滞納しますと自然退会となり、原則として2年間は再入会できなくなりますのでお気をつけください。

2) 住所変更された方は、学会事務局に FAX または E-mail でお知らせください。

3) 最新の情報は学会ホームページに掲載します。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmes2/>

……【編集後記】……

夜明けが早くなって、早朝のウォーキングが楽しい毎日となりました。無心になって歩いていると都会の中にもたくさんの自然の音があることに気づかされます。夕方、西の空を見上げながら、変わりゆく雲の色を眺める時間にも愛おしさを感じる毎日です。そろそろ梅雨には入りかけますので、ウォーキングの楽しみは減るかもしれませんが、雨の音に耳を傾けるのもまた楽しいものでしょう。

自然の音、空の色のうつろい、空気のおいしさ、そういうものを感じ取れる子ども達を育てたいと強く思うこの頃です。

ニュースレター第36号をお届けします。10月に広島大学で開催される今年の全国大会は40回を記念した大会です。記事にも紹介されていますようにセレモニーはじめ、充実した企画がたくさん用意されています。皆さまと広島の地でお会いできるのを楽しみにしています。

(嶋田由美, 北山敦康)

……

平成 21 年度 役員一覧

	氏 名 (所 属)	選出地区	担 当
会 長	吉田 孝 (関西学院大学)		
副 会 長	北山 敦康 (静岡大学)	東海	
事務局長	齊藤 忠彦 (信州大学)	◎北陸	
常任理事	小川 昌文 (横浜国立大学)	関東	企画
	田中 健次 (茨城大学)	関東	会計
	八木 正一 (埼玉大学)	関東 (北陸補佐)	編集
	嶋田 由美 (和歌山大学)	近畿	総務
	杉江 淑子 (滋賀大学)	近畿	企画
	三村 真弓 (広島大学)	中国・四国	企画
	津田 正之 (琉球大学)	九州	総務
理 事	尾藤 弥生 (北海道教育大学)	◎北海道	
	降矢美彌子 (帝京平成大学)	◎東北	
	佐野 靖 (東京芸術大学)	関東	企画
	筒石 賢昭 (東京学芸大学)	◎関東	
	坪能由紀子 (日本女子大学)	関東	企画
	藤沢 章彦 (国立音楽大学)	関東	企画
	本多佐保美 (千葉大学)	関東	会計
	新山王政和 (愛知教育大学)	◎東海	
	安田 寛 (奈良教育大学)	◎近畿	40周年記念論文集
	吉富 功修 (環太平洋大学)	◎中国・四国	編集
岩崎 洋一 (福岡教育大学)	◎九州	40周年記念誌	
会計監事	奥 忍 (京都嵯峨芸術大学大学院)	今川 恭子 (聖心女子大学)	

◎は地区担当理事

平成 21 年度 委員一覧

編集委員会	委員長：権藤敦子 (2期目) 副委員長：村尾忠廣 (1期目) 委員：岩田遵子 (2期目) 水戸博道 (2期目) 有本真紀 (1期目) 今川恭子 (1期目) 今田匡彦 (1期目) 加藤富美子 (1期目) 澤田篤子 (1期目) 中山裕一郎 (1期目) 八木正一 (常任理事互選) 吉富功修 (理事互選)
国際交流委員会	委員長：藤井浩基 (2期目) 副委員長：小川容子 (1期目) 委員：近藤真子 (2期目) 村尾忠廣 (1期目) 田中健次 (理事選出)
音楽文献目録委員会	委員：斎藤 博 関口博子 山下薫子
40周年記念論文集 編集委員会	委員長：安田 寛 委員：今川恭子 小川容子 阪井 恵 杉江淑子 南 曜子
40周年記念誌 作成委員会	委員長：岩崎洋一 委員：筒石賢昭 津田正之 尾藤弥生 降矢美彌子
学会活動検討委員会	委員長：加藤富美子 委員：岩井正浩 八木正一 安田 寛
学会賞審査委員会	委員長：吉田 孝 委員：小川容子 木村次宏 権藤敦子 坪能由紀子 村尾忠廣 安田 寛
選挙管理委員会	委員長：細田淳子 副委員長：志民一成 委員：小畑千尋 中地雅之 山下薫子
事務局	亀山さやか 徳山菜央 山本由紀子 光平有希 (編集担当)

<日本音楽教育学会事務局>

【事務局本部】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

日本音楽教育学会事務局

TEL&FAX 042-381-3562

E-mail onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日：月・水・金 10:00～16:00

【事務局編集担当】

所在地：〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座

権藤研究室気付 日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕

E-mail jmesedit@hiroshima-u.ac.jp